

5．清溪川復元事業

(都市河川再生事業探訪)

5 - 1．目的

都市の整備は、新たな道路整備や新規構造物の建設などの『効率』を優先する事業から、自然環境や景観、歴史的資源などの『魅力』を引き出す事業へと転換しつつある。我が国においても『都市再生』、『自然復元』など、魅力を引き出す事業が進められてきているが、今回ソウルに旅行する機会(3月31日～4月3日)を得たので、都市河川復元事業である『清溪川(チョンゲチョン)復元事業』を踏査した結果を紹介する。

5 - 2．研究概要

都市河川復元事業である、『清溪川(チョンゲチョン)¹復元事業』の対象区間を踏査した結果を紹介する。

5 - 3．研究成果

5 - 3 - 1．清溪川復元事業の概要

復元事業の対象となった「清溪川(チョンゲチョン)」は、1394年に朝鮮王朝の都がソウルに定められて以来、都の中部を地理的に分け、政治・社会・文化的に区分する象徴的な境である。市庁、景福宮、明洞、仁寺洞、宗廟、東大門市場などソウル市内の見所からも近い。

しかし、20世紀の半ば、この川に蓋がされ道路がつくられるようになり、その後も、経済開発や効率性などが優先され、半世紀近く覆われたままとなった。

その間も河川の原状回復や、環境の重要性が議論されていたが、事業費の捻出やその他周辺地域への影響など、さまざまな課題のため取り組みが

¹清溪川(チョンゲチョン)

清溪川(チョンゲチョン)の元々の名称は「開川(ゲチョン)」で、ソウルの西北の仁王山と北岳の南麓、南山の北麓などから始まり、都城の中の真ん中あたりで合流し、西から東方面に流れる延長10.92kmの都市河川である。

<http://japanese.metro.seoul.kr/chungae/home/seoul/main.htm>

進展しなかった。

そのような社会情勢のなか、2002年のソウル市長選に出馬した李明博(イ・ミョンバク)氏が選挙公約の一つとして、『清溪川の復元』を掲げて当選したことから、『清溪川の復元』は民意を得たと理解され、公約通り2003年7月から復元事業が開始され、2005年9月に一応の完成を見た。



図-5.3.1 清溪川復元イメージ(東大門付近)
清溪川復元事業(ソウル市運営HP)より引用

5 - 3 - 2．清溪川復元事業計画の概要 計画の概要は以下のとおり。

事業期間：2003年7月～2005年9月

事業延長：5.8km

事業費：3870億ウォン(約387億円)

計画においては、河川計画、道路計画、橋梁計画などの通常の計画のほか、清溪川が6～7月の降雨期以外は涸れ川となることから、維持用水の確保や造園計画もあわせて行われた。

5 - 3 - 3 . 清溪川踏査結果

清溪川復元事業においては、景観にも力をいれており、その一つが多彩なデザインを取り入れた橋梁の設計である。今回の踏査は、特にこの橋梁デザインの豊富さと、周辺環境との調和に重点をおいた。

ここでは、表-5.3.1および図-5.3.1に示した清溪川復元事業による架橋22橋について、写真等をもとに紹介する。

なお、踏査は清溪川の起点である光化門交差点付近に造られた源流広場をスタート地点とし、清溪川復元事業の下流端である古山子橋まで川の流れて行った。

表-5.3.1 清溪川復元事業による架橋一覧

橋梁番号	名称
1	毛塵橋
2	広通橋
3	広橋
4	長通橋
5	三一橋
6	水標橋
7	観水橋
8	世運橋
9	ベオゲ橋
10	セビヨク橋
11	馬塵橋
12	ナレ橋
13	ポドゥル橋
14	五間水橋
15	マルゲンネ橋
16	茶山橋
17	永渡橋
18	黄鶴橋
19	庇雨堂橋
20	無学橋
21	ドゥムル橋
22	古山子橋



源流広場から清溪川を望む。平日にもかかわらず、散歩や休憩に訪れる市民の姿があった。



起点である光化門交差点付近に造られた源流広場。当日は音響施設などが設置され、屋外ステージとなっていた。

光化門交差点(起点)

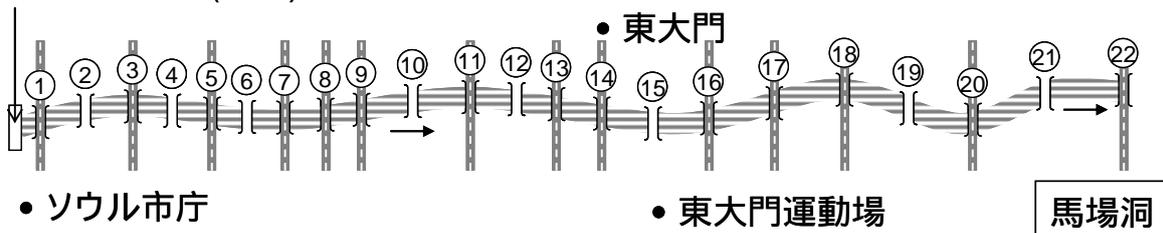


図-5.3.1 清溪川全体図および橋梁位置図

(1)毛塵橋

起点である源流広場から見える橋梁。



起点の源流広場から下流の毛塵橋を望む。
源流広場付近は噴水が多く設置されている。



源流広場から河道へつながる階段から。
源流広場周辺にも市民の姿が見られる。



毛塵橋を下流側から。橋下から水面までが近い
印象を受けた。

(2)広通橋

上空から見ると□な形をしている橋梁。人道橋
として利用されている。



広通橋を上流側から。



広通橋を下流側から。

(3)広橋



広橋を上流側から。この付近は比較的川幅が広
くとられている。



広橋を下流側から。



三一橋を下流側から。

(4)長通橋

こちらは人道橋として利用されているためか、橋脚が細い印象を受ける。



長通橋を下流側から。



河道内の清掃状況。500m間隔で清掃員が配置され、噴水等のモニュメントの清掃、ゴミ拾いが行われていた。

(5)三一橋

まるでアーケードのようにデザインされた橋梁。この橋を車もバスも渡る。



三一橋を上流側から。

(6)水標橋

人道橋として利用されているためか、4.長通橋と同様に橋脚が細い印象を受ける。



水標橋を上流側から。



水標橋を下流側から。

(7) 観水橋

歩道に傘が掛けられたデザインの橋。



観水橋を上流側から。



観水橋を下流側から。

(8) 世運橋

比較的大きな橋梁。左右岸とも世運商店街となっている。



世運橋を上流側から。



世運橋を下流側から。

(9) ベオゲ橋

あまり印象に残らない橋梁。



ベオゲ橋を下流側から。

(10)セビョク橋

人道橋であるが、大きなアーチが目を引く。



セビョク橋を上流側から。



セビョク橋を下流側から。

(11)馬廬橋

橋の四隅に下の写真のようなモニュメントが設置された橋梁。



馬廬橋を上流側から。



馬廬橋を下流側から。

(12)ナレ橋

通称「つばさ橋」。両側のアーチが翼を広げたように見えることから。こちらも人道橋。



ナレ橋を上流側から。



ナレ橋を下流側から。

(13)ポドゥル橋
別名「柳橋」。



ポドゥル橋を下流側から。

(14)五間水橋
比較的大きな橋梁。



五間水橋を上流側から。

(15)マルゲンネ橋
別名「きれいな街橋」。人道橋。



マルゲンネ橋を上流側から。

(16)茶山橋
片持の斜張橋。



茶山橋を上流側から。

茶山橋を下流側から。写真の構図が良くない。
小段の柳が良い景観を創出している。

(17) 永渡橋

照明がトーテムポールのようなデザインとなっている橋梁。



永渡橋を上流側から。



黄鶴橋を下流側から。河道内には飛び石や木の栈橋が設置されており、水辺へのアクセスは容易。

(18) 黄鶴橋

ふすまが張り巡らされたようなデザインの橋梁。



黄鶴橋を上流側から。

(19) 庇雨堂橋

アーチ式で、人道橋として利用されている。



庇雨堂橋を上流側から。



黄鶴橋近景。ふすまのように見える外観。ところどころ開放されている。



庇雨堂橋下流の存置橋脚を下流側から。かつての高速道路の橋脚をモニュメントとして残している。撮影は河道内に設置された栈橋から。

(20)無学橋

トラス橋。この橋梁までくると川幅も少し広くなる。河道内に設置された飛び石もなくなる。



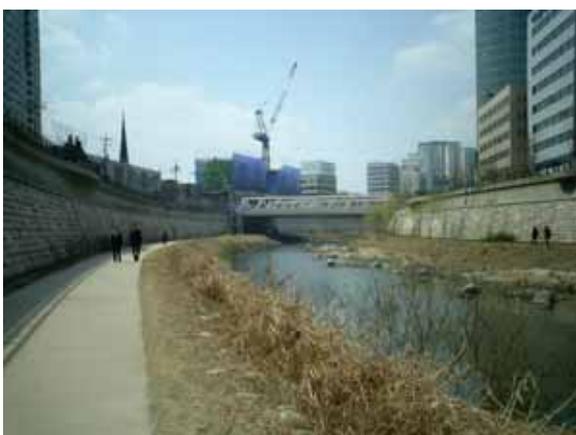
無学橋を上流側から。

(22)古山子橋

3経間の橋梁。以前の高速道路がこの付近は残されている。



古山子橋を上流側から。



(21)ドゥムル橋

1ピアの斜張橋。人道橋として利用されている。手前の橋は沈下橋。散策路から河道を横断するための施設。



ドゥムル橋を上流側から。

(23)その他

踏査中に見つけた改修の工夫などを紹介する。

・自然再生事業

河道内に水制工を設置したり、人工湿地を設けて植生に変化をつけたりと、自然再生事業に注力していることが伺える。訪れた時期が4月はじめであったため、多くの植生は枯れた状態であったが、水際部を含め緑化が進んでいることが見て取れた。



きれいな街橋付近の水制。石組みで流向を変え、水辺に変化を与えている。



三一橋付近の植生。水際部付近に人工湿地を形成し、植生を入れている。

・住民参加

水面には、周辺住民や小学生が作成したと思われるタイルが設置されている。また、河道内にはところどころに渡河用の渡しを設置されており、気軽に対岸に渡ったり、水辺に近づくことができる。

これらのように、オープンスペースが住民参加型のギャラリーとして、また散策路が住民の憩いの場として、積極的に利用されている。



三一橋付近の壁画タイル。数多くのタイルを小学生が描いており、随所に設置されている。



河道内のところどころに設置された渡河用の渡し。気軽に対岸に渡れる。石の渡しや吊橋など形式はさまざま。



広橋の左岸下側に設置されたギャラリーと広橋下流の壁画。ギャラリーでは学生の作品が展示されていた。

5 - 4 . おわりに

清溪川復元事業は、大都市の中心部に自然環境を復元し、周辺環境との調和も考慮した新たな街作りとして注目に値する事業である。我が国においても、日本橋川の再生事業など、手本とすべき河川があることに再度気づかされた。また、周辺景観との調和や、市民の憩いの場として、河川がいかに重要な役割を果たしているかを再認識する踏査であった。

以上